

水害経験と備える知恵 (近江八幡市竹町)

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 令元情復、第422号) 第三者がさらに複製する場合には、国土地理院長の承認を得なければならない。

①昔の人は、水害後に疫病が流行することを恐れていたため、疫病封じの祠が建立されている



①大正初期、俗称「フチノセ」と言うところが決壊。土砂で田んぼは全滅し、集落が襲われて床上浸水の家屋があった

④雨が降るとよく水路が溢水 田んぼが冠水していた

②大正6年 決壊によって氏神「建吉畦野神社」が土砂を被り、跡形もなく流出した

A. 即席堤防



③水が噴き出してくるため、この辺りはよく家の庭が浸かる

A. 昭和34年台風7号 伊勢湾台風 決壊

⑤広大な堤外民地が存在しているが、肥沃地で畑作が盛んに行われた一方、洪水時には遊水地となった

B. 決壊・越水

⑥取水口が設置されていて、生活・農業用水に利用されたが、洪水時でも開閉しない錠があり、門扉はない

【凡例】	
	戦前に破堤・越水、浸水が発生した場所
	戦後から昭和年間に破堤・越水、浸水が発生した場所
	平成以降に破堤・越水、浸水が発生した場所
	水害に対する知恵を確認できる場所
	過去の水害に対する詳細情報
	水害に対する知恵の詳細情報

その他の知恵	
堤防が決壊すると、靴や長靴では避難することが難しいため、草履が素足で水防活動をするように。	
鐘が鳴ったら、一軒につき一人(男性)、水防活動に出ていた。	
決壊したら、水が上流へと上がってくる。必ず下流へ避難しろと先人たちは言っていた。	



②洪水時には、堤防が決壊しないように「監視」と「魔除け」を兼ねて、堤防上で人々は火を焚いた